

## 職員のみなさんへ一言メッセージ (第122回)

熊本地震から1ヶ月が過ぎましたが、まだ、余震が続き、今だ、車や避難所暮らしの方もおられます。職員のみなさまに、今回の被災、心からお見舞い申し上げます。

私も施設長室と家の片づけが、まだ、終わっていません。これを機会に5Sをしっかりとって行くことで、マイナスをプラスに変えて行きたいと思っています。

さて、20年近く前の話になりますが、チベットのダライラマ14世が日本に(初めて)来られた時、テレビで次のようなお話をされていました。

『人間にとって辛い体験をしている時、困難に直面している時こそ、深くも豊かな人間性を育てる絶好のチャンスでもあるのです。』

他者に対する深い愛や慈しみの心は、忍耐と寛容の実践を通して学ぶものです。

例えば、誰かがあなたに理不尽な苦しみや耐え難い悲しみを与えた時、その時あなたの心に、その人に対する激しい怒りや憎しみの心が湧き起ってくる・・・まさにその時こそ、耐えることを学び、許す事を学ぶ絶好のチャンスなのです。

その為には、あなたに苦しみを与えてくれる人が必要になり、そして自分に苦しみを与えてくれた人に対して尊敬や感謝の念が生まれてくるのです。

そして最後にダライラマはこう言われました。

「人間の究極の本性は、慈悲と利他の心である」

「人間の究極の本性は、慈悲と利他の心である」

人間はこころの奥底に、人を愛し許す心と、人のために役に立ちたいと云う利他の心を本能として誰もが持っている。

人間が生まれてきた本当の目的は、人を許し慈しむ心と、人の喜びをわが喜びとする利他の心を学ぶためである』

辛い体験をしている時、困難に直面している時、人は自分のこころの奥底からかなしみ、そして、祈り、反省をします。悲しむことは、深く豊かな人間性を養うチャンスでありあることは確かだと思えます。

反面、順調に物事が進む時は、与えられている良い環境は自分の実力だと過信し、傲慢になり、感謝もせず、人間性が浮つき、後々、とんでもない不幸の種を蒔いている時でもあります。

我々、凡人は自分に理不尽な苦しみや耐え難い悲しみを与えてくれる人に、感謝することは、できませんが、何十年後かに振り返れば、与えられた苦しみこそが、今の自分を形作ってくれた、原動力になっていると気付く筈です。

平成28年5月25日 真和館施設長 藤本和彦